

2017年12月吉日

日本気象学会2018年度春季大会 趣意書

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、公益社団法人日本気象学会の活動にご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本気象学会では来る2018年5月16日(水)から19日(土)までの4日間、つくば国際会議場(茨城県つくば市、URL <http://www.epochal.or.jp/>)にて2018年度春季大会を開催いたします。

本学会は1882(明治15)年に設立されて以来、140年近い歴史を持っております。気象学をはじめ、大気・環境科学や気候学に関する多くの分野の科学者、技術者、大学院生等の参加により、我が国における気象関連研究の中核としてその発展に貢献し、また気象災害の防止や、地球温暖化問題をはじめとした環境問題にも貢献するべく研究活動の推進に取り組んでおります。現在では、個人と団体などを含め約4,000名の会員を擁し、毎年春秋2回の全国大会の開催、研究会・講演会の開催、機関誌・学術専門誌の発行、その他の図書の刊行、および研究の奨励や表彰等の事業を行っております。

本大会では全国から約1,000名に及ぶ会員が一堂に会し、4日間にわたり研究発表会を実施するとともに、公開シンポジウム、展示会、一般向け公開気象講演会、高校生等を対象としたジュニアセッションの開催を予定しております。

つきましては、気象学及び気象関連産業の益々の発展のため、シンポジウム要旨集への広告掲載や、会場での企業展示を通じてご参加を賜われますよう、お願い申し上げます(別紙1「広告掲載・企業展示・賛助金募集要項」参照)。また、本大会には当学会所属の大学院生や有期雇用の若手研究者(約400名)の過半数が参加する予定であり、そのキャリア形成をサポートすることを目的としてリクルートブースを設置いたします。リクルートブースにもご参加を賜われますよう、お願い申し上げます(別紙2「リクルートブース募集要項」参照)。

貴社の気象学・大気科学・環境科学への関与を広く会員に提示する機会として、本大会を是非ともご活用頂ければ幸甚に存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

日本気象学会2018年度春季大会

大会委員長

隈 健一(気象研究所長)